

# むくのきだより 6月号



令和8年6月1日

港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

## 学びをつなげる～架け橋期の教育の充実～

園長 中村 美奈子

「これ、ユスラウメっていうんだよ。」「優しくさわってみて。」年長ゆり組の子供たちが、園庭でつやつやした赤い実を見付け、タブレット端末で先生と一緒に調べて食べられると知って収穫したものを年少ひまわり組の子供たちに持ってきてくれました。ひまわり組の子供たちは、うれしそうに、順番にそっとさわりにっこりしていました。園庭では、ビワもたくさんの実をつけ、子供たちが植えた夏野菜もぐんぐん育っています。子供たちで収穫し、味わう予定です。ユスラウメは、ジュースにして甘酸っぱさを味わいました。

5月27日に、赤羽幼稚園・赤羽小学校・飯倉保育園・アイグラン保育園・太陽の子三田保育園の教職員が集まり、保幼小合同研修会を開催しました。赤羽幼稚園を参観後、動植物に関わる姿・様々な遊びで育つ姿・ネイティブティーチャーとの交流や ICT 機器の活用などの日常の様子を紹介し、就学前の学びと小学校での学びをつなぐカリキュラムについて話し合いました。子供の成長は年齢や幼稚園・保育園・小学校の制度で区分されているのではなく、連続しています。特に、就学前の5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」として、幼児期の遊びを通した学びの特性を理解し、幼稚園・保育園・小学校が協働してカリキュラムを作成し、日々の教育活動を充実させていく重要性が、文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」において示されました。港区では、「港区版 架け橋期のカリキュラム」を作成し、赤羽幼稚園・赤羽小学校でも実践をしています。幼児期の子供に必要なのは、文字や計算の訓練ではありません。子供は遊びの中で、頭も心も体も動かして、自分から自然・人・物に直接関わり総合的に学んでいきます。遊びながら考え、想像し、自分の体や創作物を使って表現したり、友達と刺激し合って興味を広げたりしていきます。

また、本園では、幼稚園教育の充実のために、架け橋期に留まらず、小・中学校との連携をしています。6月17日には、三田アカデミー(赤羽幼稚園・赤羽小学校・芝小学校・御田小学校・三田中学校)の教員が集まり、よりよい教育を目指し協議をします。その他、年間を通して、併設園の強みを生かした赤羽小学校児童との交流、三田中学校生徒との交流(職場体験、園児の学校訪問)、地域の方々や保育園児との交流をカリキュラムに取り入れています。6月9日の「赤羽こどもまつり」には、保護者の皆様や地域の三田地区委員会の皆様に出店のご協力をいただき、近隣保育園の子供たちを招き、一緒に楽しむ予定です。今後も、保育園・小学校・中学校や地域と連携し、知恵を出し合い、子供たちを育てていきます。

\*三田地区委員会は、地域の子供は「地域で育てる」という考えのもと、港区と連携し、三田中学校の学区の町会、町会内の施設、三田中学校・芝小学校・御田小学校・赤羽小学校・赤羽幼稚園の三田アカデミーとそれを支える委員で成り立っている、ポジティブボランティアの委員会です(港区青少年対策三田地区委員会広報誌より)。



ビワ



アジサイ



ユスラウメ

